

第2 刑法犯少年

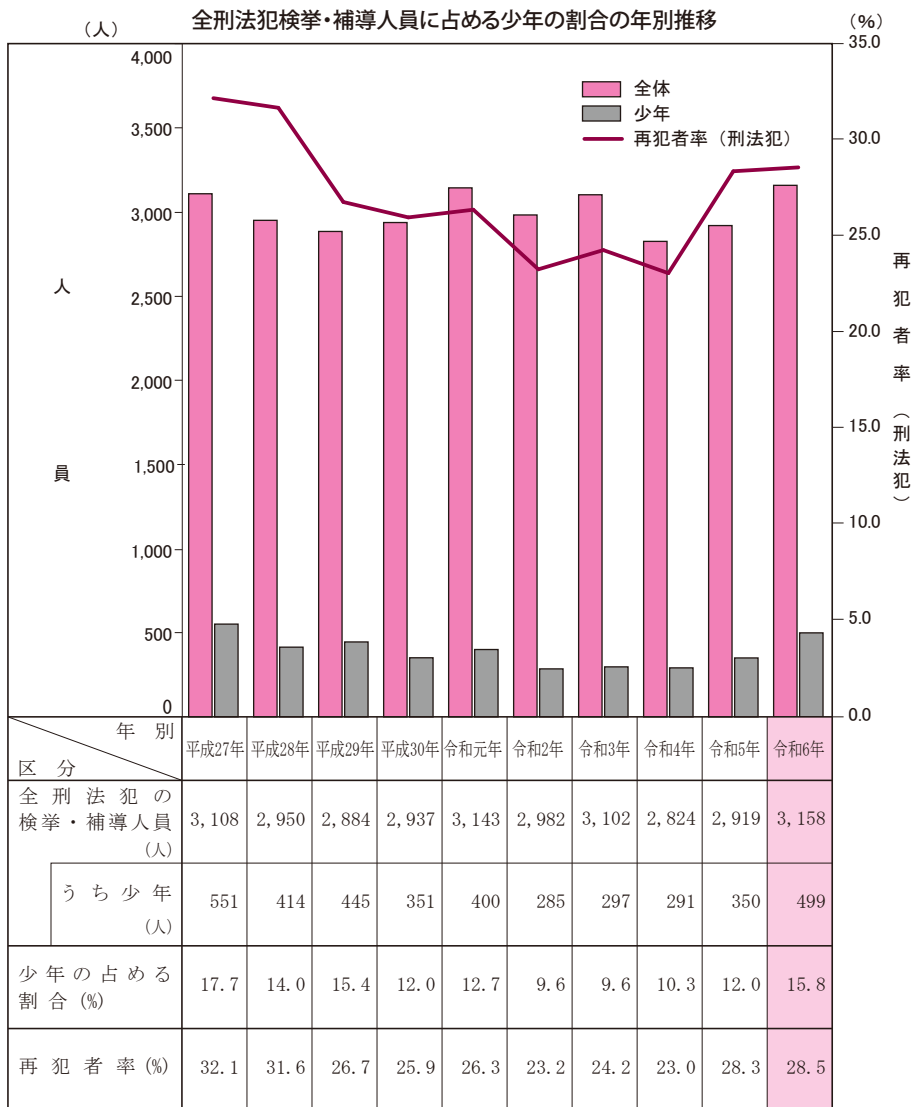
1 年別推移

- 刑法犯少年は499人で、前年に比べ149人（42.6%）増加した。
- 全国で検挙・補導した刑法犯少年は29,675人で、前年と比べ3,469人（13.2%）増加した。



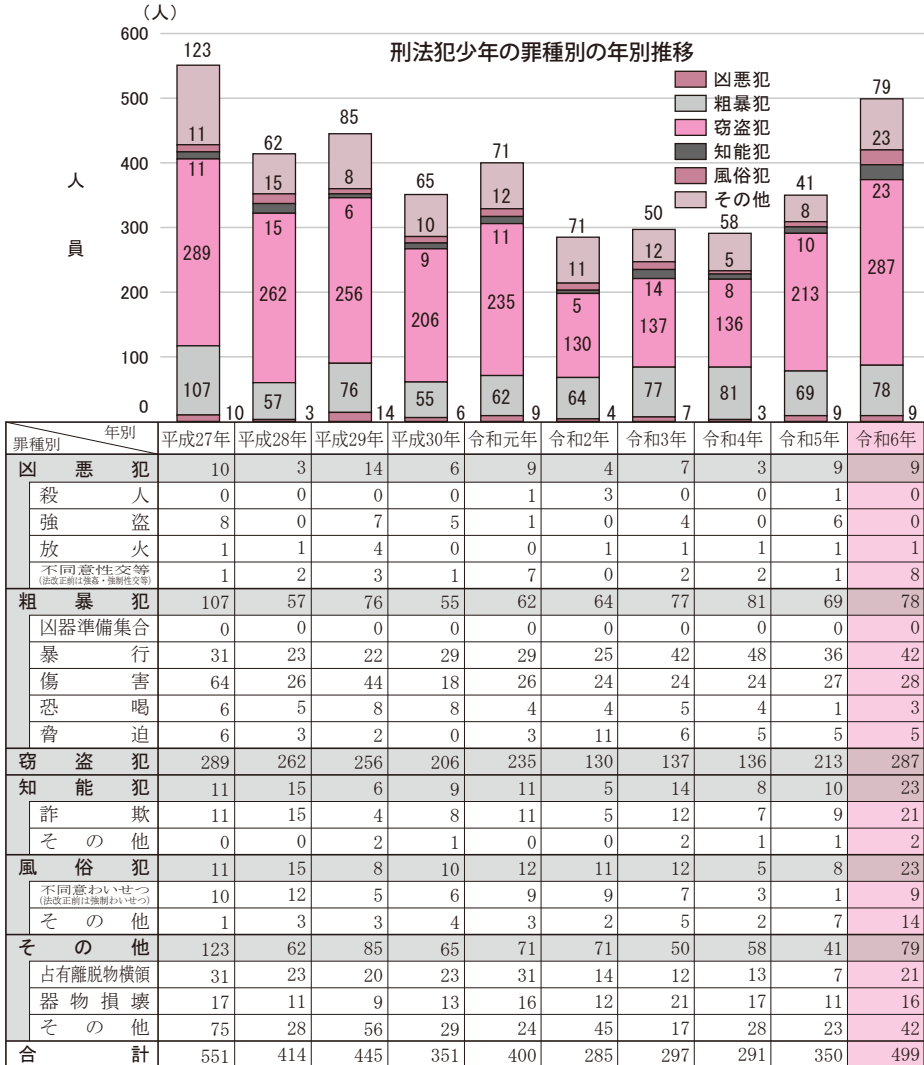
2 全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

- 成人を含めた全刑法犯検挙・補導人員3,158人中に占める少年の割合は15.8%であった。
- 刑法犯少年（触法少年を含む）の再犯者率は28.5%であった。



3 罪種別

- 凶悪犯の検挙・補導人員は9人で、前年と同数であった。
粗暴犯は78人で、前年に比べ9人（13.0%）増加し、窃盗犯は287人で、前年に比べて74人（34.7%）増加し、知能犯は23人で、前年に比べて13人（130.0%）増加し、風俗犯は23人で、前年に比べて15人（187.5%）増加した。
- 刑法犯少年の罪種別構成比は、窃盗犯が57.5%であり、前年に比べ3.4ポイント減少した。



4 原因・動機別

- 刑法犯少年の非行の原因・動機では、「所有・消費目的」が最も多く、次いで、「憤怒」、「遊興費充当」、「遊び・好奇心・スリル」の順であった。

刑法犯少年の原因・動機別状況

(人)

原因・動機別 罪種別 年齢別 学職別	原因・動機別	合 計	生 活 困 窮	遊 興 費 充 当	債 務 返 済	一 時 的 盗 用	所 有 ・ 消 費 目 的	そ の 他 の 利 欲	怨 恨	憤 怒	痴 情	性 的 欲 求	服 従 ・ 迎 合	遊 び ・ 好 奇 心 ・ ス リ ル	自 己 顕 示	そ の 他
	合計	499	4	41	1	8	248	19	15	68	0	35	1	38	3	18
	構成比 (%)	100	0.8	8.2	0.2	1.6	49.7	3.8	3.0	13.6	0.0	7.0	0.2	7.6	0.6	3.6
罪 種 別	凶 悪 犯	9								1		7				1
	粗 暴 犯	78							8	61		1		5	1	2
	窃 盗 犯	287	2	22		5	232	12	3			4		5		2
	知 能 犯	23		14			3	3					1	1		1
	風 俗 犯	23							1			20		2		
	そ の 他	79	2	5	1	3	13	4	3	6		3		25	2	12
年 齢 別	1 4 歳 未 満	125		4		2	67	2	3	28		5		10	2	2
	1 4 歳	50		4		1	29	1	3	4		3		3		2
	1 5 歳	68		1		2	42	4	1	4		4		9		1
	1 6 歳	87		5		1	51	4	2	6		5		8		5
	1 7 歳	65	2	9		1	22	4		11		8		3	1	4
	1 8 歳	59	1	9		1	20	2	4	11		4		4		3
	1 9 歳	45	1	9	1		17	2	2	4		6	1	1		1
学 職 別	未 就 学	0														
	小 学 生	66				1	36	1	2	16		3		5	1	1
	中 学 生	135		8		4	77	5	4	16		6		10	1	4
	高 校 生	150	1	13		2	73	5	5	17		16		12		6
	その他の学生	30		3			18	1	2	1		4		1		
	有 職 少 年	73	1	12			24	6	2	13		4		8	1	2
	無 職 少 年	45	2	5	1	1	20	1		5		2	1	2		5

5 窃盗犯少年の学職別・手口別

- 窃盗犯少年は287人で、前年に比べ74人(34.7%)増加した。
- 手口別では、万引きが183人で最も多く、窃盗犯全体の63.8%を占め、次いで自転車盗の36人(12.5%)、オートバイ盗の14人(4.9%)の順であった。
- 街頭犯罪(自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、部品ねらい、自販機ねらい、ひったくり)は56人で、自転車盗が36人(64.3%)と最も多く、次いでオートバイ盗が14人(25.0%)、車上ねらいが3人(5.4%)、自動車盗が2人(3.6%)、部品ねらいが1人(1.8%)の順であった。
- 学職別では、中学生が88人(30.7%)と最も多く、次いで高校生が81人(28.2%)、小学生が40人(13.9%)、有職少年が35人(12.2%)、無職少年が23人(8.0%)、その他の学生が20人(7.0%)の順であった。

窃盗犯少年の学職別・手口別状況

(人)

学職別 手口別		未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年	合 計	前年対比(増減)	
			小学生	中学生	高校生	その他				人 員	比率(%)
侵入盗	空き巣			1		2		1	4	2	100.0
	学校荒し					1		1	2	1	100.0
	忍び込み								0	▲1	▲100.0
	出店荒し						1		1	▲2	▲66.7
	工場荒し								0	0	0.0
	その他						2		2	▲5	▲71.4
	小 計	0	0	1	0	3	3	2	9	▲5	▲35.7
非侵入盗	万 引 き		37	52	53	13	15	13	183	51	38.6
	自 転 車 盗		1	15	16	2		2	36	4	12.5
	オートバイ盗			8	1		3	2	14	8	133.3
	自 動 車 盗						2		2	0	0.0
	ひったくり								0	▲4	▲100.0
	自販機ねらい								0	0	0.0
	車上ねらい			3					3	▲1	▲25.0
	部品ねらい			1					1	1	—
	そ の 他		2	8	11	2	12	4	39	20	105.3
	小 計	0	40	87	81	17	32	21	278	79	39.7
合 計		0	40	88	81	20	35	23	287	74	34.7
構成比(%)		0.0	13.9	30.7	28.2	7.0	12.2	8.0	100.0		
前年対比	人 員	0	14	21	18	16	6	▲1	74		
(増減)	比率(%)	0.0	53.8	31.3	28.6	400.0	20.7	▲4.2	34.7		

(注) ▲印は、減少を示す。

6 学職別

- 刑法犯少年を学職別で見ると、高校生（150人）が最も多く、次いで中学生（135人）、有職少年（73人）、小学生（66人）、無職少年（45人）、その他の学生（30人）の順であった。
- 中学生・高校生で全体の57.1%を占めており、依然として非行の中心であるといえる。
- 学職別に見た女子少年の構成比は、中学生が33.7%、次いで高校生の31.5%、小学生の14.6%の順であった。

刑法犯少年の学職別・罪種別状況

(人)

学職別			合 計	未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年
罪種別					小学生	中学生	高校生	その他		
凶 悪 犯	殺 人	うち女子								
	強 盗	うち女子								
	放 火	うち女子	1							1
	同 意 性 交 渉	うち女子	1							1
	不 同 意 性 交 渉	うち女子	8			2	2	1	1	2
	小 計	うち女子	9			2	2	1	1	3
粗 暴 犯	凶 器 準 備 集 合	うち女子	1							1
	暴 行	うち女子	42		13	9	13		6	1
	傷 害	うち女子	5		1		2		2	
	恐 喝	うち女子	28		1	9	5	1	9	3
	脅 迫	うち女子	3			1			1	1
	脅 迫	うち女子	3				1	1	1	
	脅 迫	うち女子	5		2	1	2			
	脅 迫	うち女子	2		1	1				
	脅 迫	うち女子	78		16	19	21	2	16	4
	脅 迫	うち女子	10		2	2	2		3	1
窃 盗	盗 犯	うち女子	287		40	88	81	20	35	23
	盗 犯	うち女子	61		11	22	19	1	3	5
知 能 犯	詐 欺	うち女子	21			3	5	3	6	4
	そ の 他	うち女子	6			2	3		1	
	そ の 他	うち女子	2			1			1	
	小 計	うち女子	1						1	
風 俗 犯	不 同 意 わ い せ つ	うち女子	23			4	5	3	7	4
	不 同 意 わ い せ つ	うち女子	7			2	3		2	
	そ の 他	うち女子	9		2		5	1	1	
	そ の 他	うち女子	14			4	8	1	1	
そ の 他	小 計	うち女子	1			1				
	占 有 離 脱 物 横 領	うち女子	21			3	11	1	4	2
	盗 品 譲 受 け 等	うち女子	3			1	2			
	器 物 損 壊	うち女子	6			2	1		1	2
	器 物 損 壊	うち女子	2			1				
	そ の 他	うち女子	16		8	6	2			
	そ の 他	うち女子	1				1			
	そ の 他	うち女子	36			7	14	1	7	7
	小 計	うち女子	3			1	1		1	
	小 計	うち女子	79		8	18	28	2	12	11
合 計	小 計	うち女子	9			3	4		2	
	小 計	うち女子	499		66	135	150	30	73	45
構 成 比	小 計	うち女子	89		13	30	28	1	10	7
	小 計	うち女子	100.0		13.2	27.1	30.1	6.0	14.6	9.0
前 年 対 比	小 計	うち女子	100.0		14.6	33.7	31.5	1.1	11.2	7.9
	小 計	うち女子	149		29	28	52	22	11	7
(増 減)	小 計	うち女子	31		4	11	11	1	2	2
	小 計	うち女子	42.6		78.4	26.2	53.1	275.0	17.7	18.4
	小 計	うち女子	53.4		44.4	57.9	64.7	—	25.0	40.0

- 刑法犯少年の過去10年間における学職別推移は、以下のとおり。
- 男女ともに未就学を除くすべての学職において、前年より増加している。

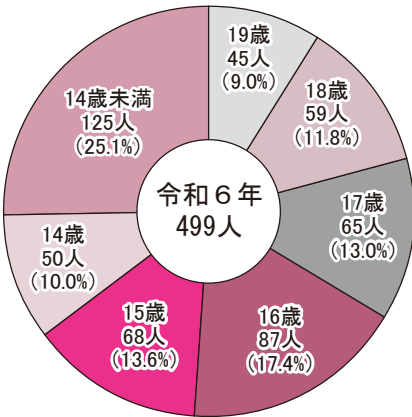
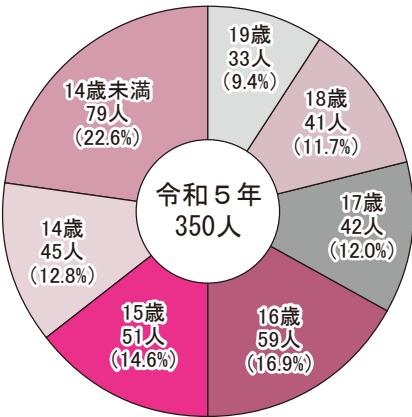
刑法犯少年の学職別・年別推移
 (人)

学職別 \ 年 別		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
未 就 学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち 女 子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学 生 ・ 生 徒	小 学 生	46	46	58	43	53	33	50	53	37	66
	うち 女 子	7	9	14	4	11	11	13	16	9	13
	中 学 生	215	129	118	115	122	51	76	76	107	135
	うち 女 子	28	9	12	21	34	9	13	10	19	30
	高 校 生	129	94	118	91	103	90	95	71	98	150
	うち 女 子	13	20	11	20	21	15	13	15	17	28
	そ の 他	13	24	16	14	19	24	8	18	8	30
	うち 女 子	1	1	4	0	2	6	3	1	0	1
有 職 少 年		95	82	93	43	79	67	54	56	62	73
	うち 女 子	19	9	9	7	16	6	2	7	8	10
無 職 少 年		53	39	42	45	24	20	14	17	38	45
	うち 女 子	8	4	6	10	5	3	0	5	5	7
合 計		551	414	445	351	400	285	297	291	350	499
	うち 女 子	76	52	56	62	89	50	44	54	58	89

7 年 齢 別

- 刑法犯少年を年齢別で見ると、14歳未満が125人と最も多く、次いで16歳、15歳の順となっている。

刑法犯少年の年齢別状況



8 都道府県別全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

○ 岐阜県の成人を含めた全刑法犯の検挙・補導人員に占める少年の割合は15.8%で、全国平均より高い。

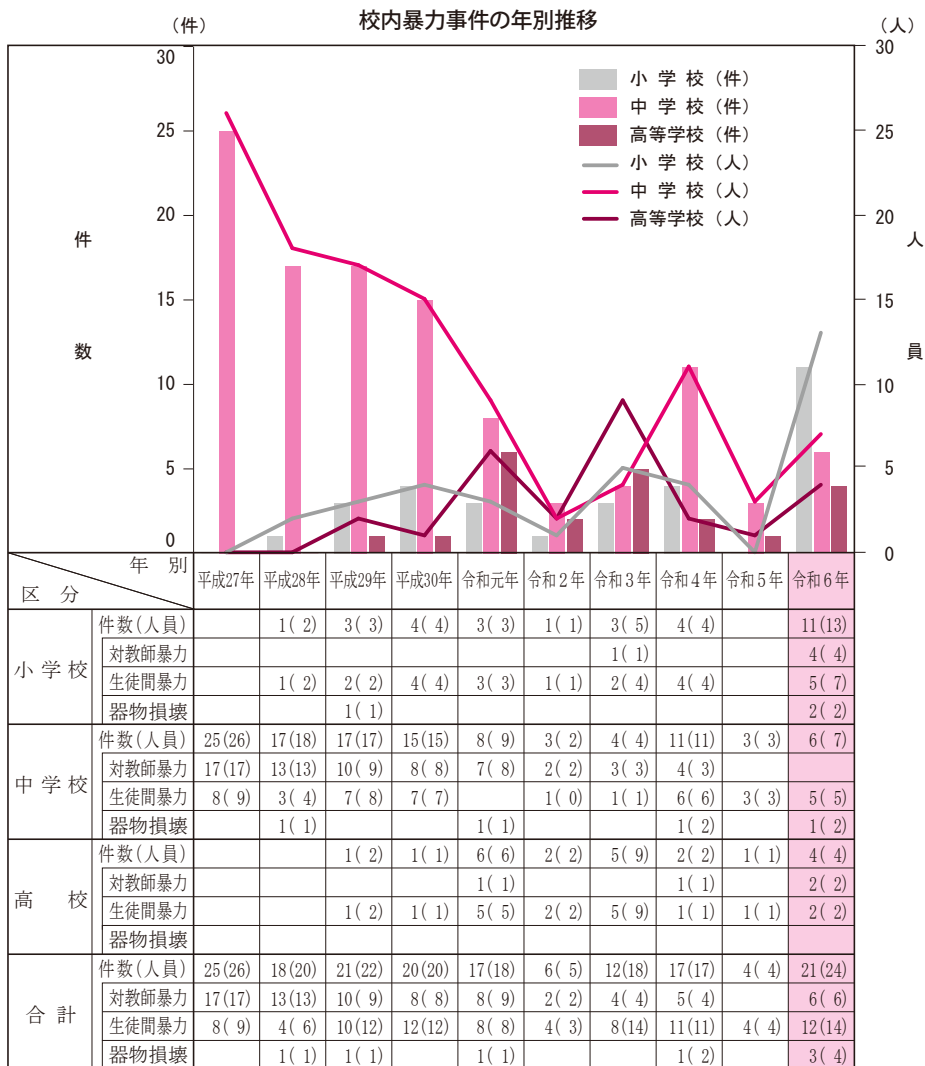
都道府県別全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

都道府県名	全 刑 法 犯 検 挙 ・ 補 導 人 員				少年の占める割合 (%)
	(人)	うち成人	うち犯罪少年	うち触法少年	
北海道	9,239	7,905	959	375	14.4
青森	1,563	1,394	93	76	10.8
岩手	1,210	1,035	93	82	14.5
宮城	3,240	2,930	266	44	9.6
秋田	1,058	943	64	51	10.9
山形	1,377	1,226	93	58	11.0
福島	2,287	1,977	215	95	13.6
東京	25,127	21,026	2,705	1,396	16.3
茨城	3,690	3,304	280	106	10.5
栃木	2,115	1,883	189	43	11.0
群馬	3,284	2,914	294	76	11.3
埼玉	10,206	8,915	1,139	152	12.6
千葉	8,258	7,302	876	80	11.6
神奈川	11,781	10,193	1,484	104	13.5
新潟	2,893	2,553	266	74	11.8
山梨	853	774	76	3	9.3
長野	2,076	1,771	211	94	14.7
静岡	5,768	5,154	446	168	10.6
富山	1,904	1,606	253	45	15.7
石川	1,608	1,385	180	43	13.9
福井	1,324	1,104	186	34	16.6
岐阜	3,158	2,659	374	125	15.8
愛知	12,895	10,937	1,641	317	15.2
三重	2,436	2,110	287	39	13.4
滋賀	2,533	2,106	291	136	16.9
京都	4,218	3,572	450	196	15.3
大阪	16,815	13,915	2,076	824	17.2
兵庫	11,916	10,036	1,200	680	15.8
奈良	2,642	2,163	294	185	18.1
和歌山	1,854	1,528	243	83	17.6
鳥取	975	807	109	59	17.2
島根	829	727	68	34	12.3
岡山	2,905	2,353	410	142	19.0
広島	4,510	3,666	529	315	18.7
山口	1,821	1,489	250	82	18.2
徳島	866	745	94	27	14.0
香川	1,753	1,497	183	73	14.6
愛媛	1,929	1,632	165	132	15.4
高知	1,123	915	115	93	18.5
福岡	9,711	8,226	1,097	388	15.3
佐賀	1,461	1,242	144	75	15.0
長崎	1,791	1,565	151	75	12.6
熊本	2,659	2,261	286	112	15.0
大分	1,209	1,064	123	22	12.0
宮崎	1,438	1,165	136	137	19.0
鹿児島	2,088	1,791	224	73	14.2
沖縄	3,343	2,599	454	290	22.3
合 計	199,739	170,064	21,762	7,913	14.9

(注) 県独自集計による。

9 校内暴力事件

- 校内暴力事件による検挙・補導は21件24人で、前年に比べ件数は17件増加し、人員も20人増加した。
- 態様別では、生徒間暴力が12件14人と最も多く、次いで対教師暴力の6件6人であった。
- 学職別では、小学生が11件13人と最も多く、次いで中学生の6件7人であった。



(注) () 内の数値は、人員数を示す。

10 いじめに起因する事件

○ いじめに起因する事件での検挙・補導は5件7人で、前年と比べ件数で3件、人員で5人増加した。

